

## 平成 23 年度 活動方針

直江津港は、地域経済を支える重要な基盤として整備を進めてきた。主に、沖防波堤や東ふ頭地区 4 号岸壁の整備が完了している。さらに、コンテナヤード拡張整備や第 3 東防波堤築堤は平成 23 年度中に完了予定である。また、上越火力発電所、直江津 LNG 受入基地の建設が順次進められる中、今秋には LNG 船第一船の入港が予定されており、エネルギー港湾としての発展が大いに期待されている。

一方、昨年 の 総貨物取扱量は、世界的な経済不況による受注の減少等により一昨年までは貨物取扱量は減少傾向であったが、貨物量 2,171,772 t、対前年比 1.7%と僅かに増加している。またコンテナ貨物取扱量は 23,338TEU と過去最高を記録しているが、国の港湾政策の転換による港湾間競争の激化や東日本大震災と福島第一原発事故の影響による抜港問題など、港を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。

このような中で、今年 2 月末には韓国航路が新たに 1 便増え航路の充実が図られていることや、エネルギー港湾としての機能など、直江津港の優位性・将来性を強くアピールし、長野県等後背地域との連携を図りながら利用促進活動に取り組むことが重要である。

このため、当協会では次の事項を重点目標に掲げ、関係者が一致協力して活動を展開する。

### 重点目標

- 1：直江津港港湾計画の促進  
エネルギー港湾としての整備促進など
- 2：直江津港の利用促進  
地域産業との結びつきを強めたポートセールスの実施  
長野や近隣地域との連携による利用促進  
国内フェリー航路に関する情報収集  
動物検疫対象品目の取扱いに向けたポートセールス
- 3：国際定期コンテナ航路の拡充とコンテナ荷役施設の充実
- 4：国の港湾施策に関する情報収集及び要望活動
- 5：小木直江津航路の活性化及び安定運航
- 6：直江津港の交流拠点としてのにぎわい創出